

比地大滝

落差 26 メートルの比地大滝は、やんばる国立公園最大の滝です。滝周辺の森林は、長きにわたってハイキングやキャンプを楽しむ人々に人気を博してきました。火鉢が家庭における主な熱源だった昔、炭焼き職人たちはこの場所に炭焼き窯を作り、巡礼者たちは川と山の神々を崇拝するために訪れました。入り口のすぐ向こうにあるキャンプ場には、テントを張れる台と、滝に続くよく整備された遊歩道があります。滝までの往復は約 90 分です。

看板が立てられている地点が数カ所あり、そこでは川に足を踏み入れて涼むことができます。また、「川沿いコース」を通じて上流に向かって歩くこともできます。かつて地元の人たちが使っていたこの道は、滝まで約半分のところで遊歩道に合流します。この地点の先は流れが速く危険なので、川に入ってはいけません。

遊歩道には、シマトネリコやヒカゲヘゴなどの植物が豊富に生育しています。遊歩道沿いで見かけられるかもしれない生き物にはノグチゲラ、宝石のようなリュウキュウハグロトンボ、バーバートカゲがいます。中間地点には木の吊り橋があり、15 メートル以上の高さから緑豊かな溪谷の素晴らしい景色を眺めることができます。橋を渡って 5～10 分歩いたところに、今は使われていない炭焼き窯の低い壁が見えます。炭焼き窯は、森の資源を利用するとともに森の世話をしてきた先人たちを偲ばせます。

遊歩道の終点では、轟く滝のしぶきが写真撮影やピクニックに最適な背景を提供してくれます。しかし、滝つぼに入るとは禁止されているので注意してください。